



追加型投信 / 国内 / 株式

ファンド情報提供資料
データ基準日: 2018年11月30日**優良日本株ファンド <愛称:ちから株>
「足下の運用状況と今後の見通し」**

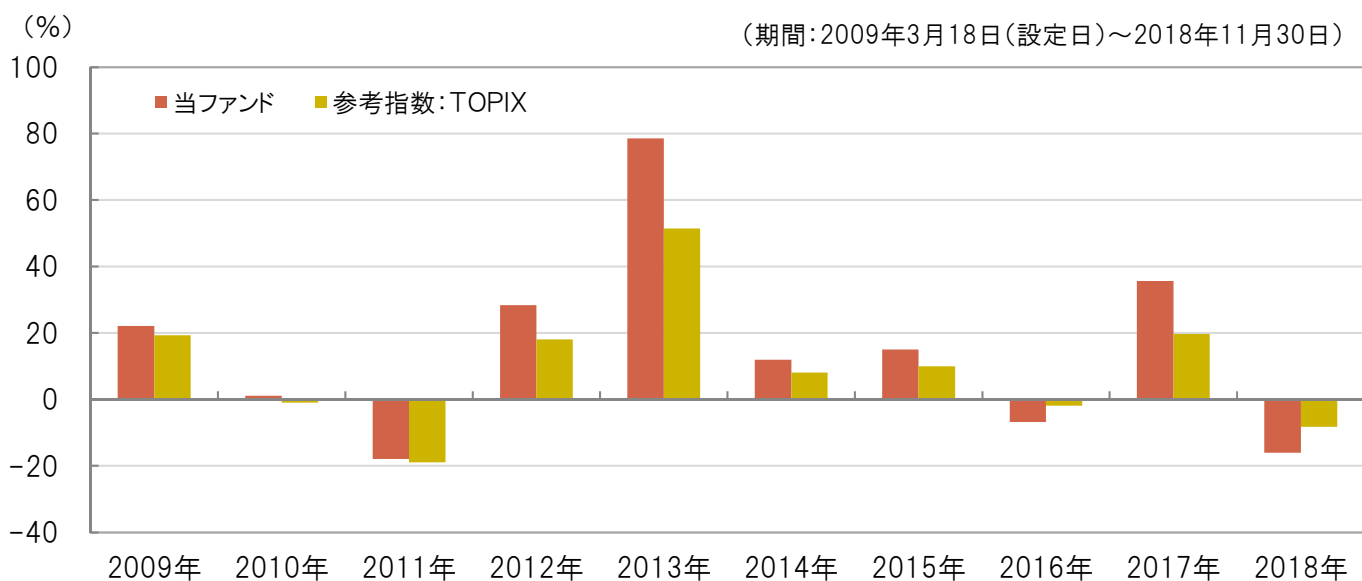
平素より、「優良日本株ファンド <愛称:ちから株>」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

上場企業の収益動向は高水準ながら一部に鈍化の兆しが見え、先進国の金融政策や通商交渉等の不透明感などから、国内株式市場はやや値動きが荒くなっています。

このような環境下、当ファンドの足下の運用状況と今後の見通しについてご説明致します。

設定来の年間騰落率の推移

当ファンドの設定来の年間騰落率は、参考指数であるTOPIXに対して、概ねプラスで推移しました。しかし2018年は、TOPIXが8.3%下落したのに対して、当ファンドは16.1%下落しました。これは、当ファンドの小型株の組入れがTOPIXよりも高かったことによるもので、2017年は小型株の組入れが大きかったことがプラスに寄与しましたが、2018年はその反動を受けました。



当ファンド	22.1%	1.2%	-18.0%	28.4%	78.5%	12.0%	15.0%	-6.8%	35.6%	-16.1%
参考指数: TOPIX	19.3%	-1.0%	-18.9%	18.0%	51.5%	8.1%	9.9%	-1.9%	19.7%	-8.3%
TOPIX との差	2.8%	2.1%	1.0%	10.4%	27.1%	3.9%	5.1%	-4.9%	15.9%	-7.8%

- ・当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。また、当ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。
- ・参考指数は、当ファンドのベンチマークではありません。
- ・2009年の騰落率は2009年3月17日(設定日前営業日)~2009年12月末までの騰落率を使用しており、10,000を起点として計算しています。また、2018年の騰落率は2017年12月末~2018年11月末までの騰落率を使用しています。

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。■上記は指数を使用しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。
■表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

市場動向と足下の運用状況

- 当ファンドは強い競争力を持つ小型株を一貫して20～30%程度の比率で組み入れております。足下、組み入れている小型株の見直しを行い、一部売却したことから、小型株の組入比率は、2018年11月末時点で約20%まで低下しました。
- 2018年4月以降は、値がさ株(株価水準の高い銘柄)が優位な相場であり、TOPIXは日経平均株価に対して劣後しました*。小型株(TOPIXスモール)は、2017年後半から2018年初まで上昇した反動もあり、2018年夏場以降は大型株と比較すると劣後して推移しました。しかし2018年10月以降は、その傾向が緩和しています。 (【ご参考①】)

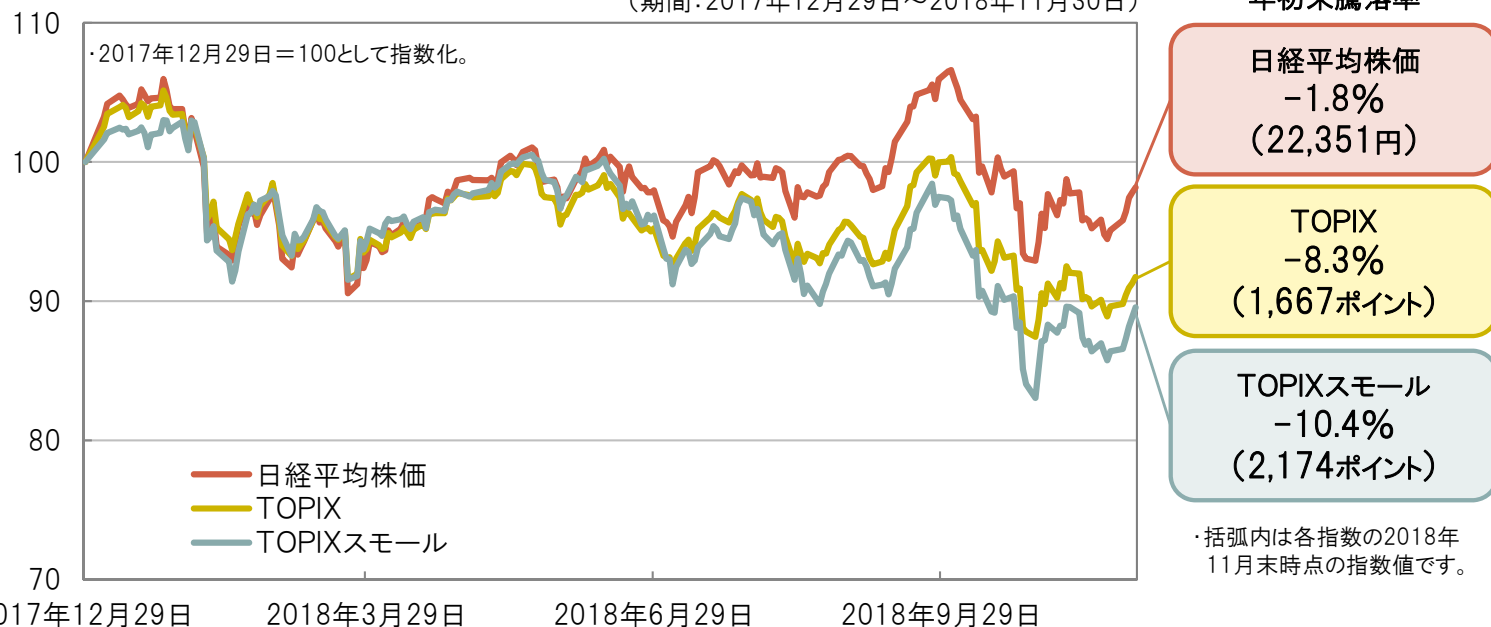
・TOPIXは、当ファンドの参考指数です。日経平均株価とTOPIXスモールは、当ファンドのベンチマークまたは参考指数ではありません。

* TOPIXは東証1部の構成銘柄(約2,100銘柄)の時価総額を加重して指数化した指数であり、日経平均株価は構成されている225銘柄の株価の単純平均で算出された指数です。TOPIXは時価総額が大きい銘柄の影響を受けやすく、日経平均株価は値がさ株の影響を受けやすくなります。

- 当ファンドの運用チームでは、中小型株調査を増強し、保有銘柄の再精査や新規銘柄の発掘に注力し、ポートフォリオを再構築しています。具体的には、2018年11月に、基準価額に大きくマイナスに影響した銘柄である「ハウズドゥ」・「シュッピン」・「UTグループ」等の再精査を行いました。その結果、「ハウズドゥ」・「シュッピン」を売却しました。一方で、「UTグループ」については、保有を継続しています。また、新規銘柄の厳選を行い、「セントラル警備保障」・「オイシックス・ラ・大地」等の中小型銘柄を組み入れました。(【ご参考②】)

【ご参考①】各日本株式指数の推移と騰落率

(期間:2017年12月29日～2018年11月30日)



	2018年				
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10月	11月
日経平均株価	-5.8%	4.0%	8.1%	-9.1%	2.0%
TOPIX	-5.6%	0.9%	5.0%	-9.4%	1.3%
TOPIXスモール	-4.8%	1.0%	1.4%	-10.6%	2.8%

■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。■ 上記は指数を使用しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。■ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

【ご参考②】2018年11月の主な売買銘柄

基準価額にマイナスに影響した銘柄

(3457) ハウスドゥ

- 売却した理由: 不動産の仲介・売買・賃貸等を行う同社は、成長の牽引役と期待されるハウス・リースバック事業で競争激化が見込まれるため、全売却しました。



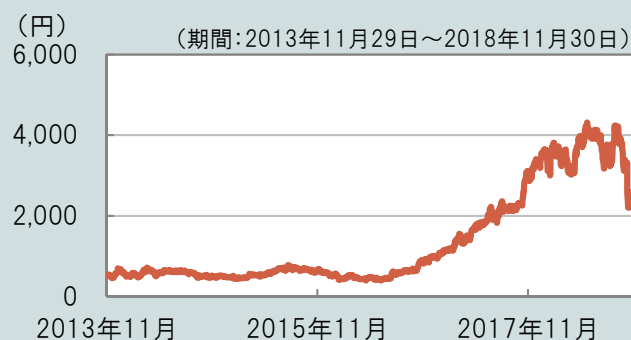
(3179) シュッピン

- 売却した理由: インターネットと店舗において中古品の買取と販売等を行う同社は、主力のカメラ事業の成長率や利益率の鈍化を受けて、売却しました。



(2146) UTグループ

- 継続保有した理由: 製造業向け人材派遣で高いシェアを誇る同社は、派遣需要が堅調で、経費を抑え売上を伸ばすことで増益が期待できるため、組み入れを継続しました。



新たに組み入れた銘柄

(9740) セントラル警備保障

新規購入した理由

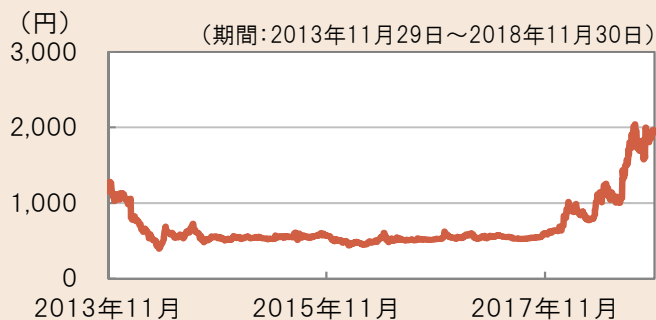
- 警備サービスを行う同社は、主力のJR東日本向けの需要拡大に加えて、東京五輪など国内の大型イベント特需に期待できるため、新規に組み入れました。
- 同社は、2019年2月期の通期業績予想の上方修正を発表し、営業利益の増益幅計画を前期比45%から78%へ引き上げました。これは、臨時警備が想定以上に発生したことや大型警備における諸経費が当初予想を下回ったことなどによるものです。



(3182) オイシックス・ラ・大地

新規購入した理由

- 安全性に配慮した食品宅配を行う同社は、調理キットの販売が好調なことや、経営統合の相乗効果による業績拡大が予想されるため、新規に組み入れました。
- 同社は、2019年3月期の通期業績予想の上方修正を発表し、営業利益の増益幅計画を前期比35%から102%へ引き上げました。これは、調理キット等の定期購入会員数が期末目標を既に上回ったことに加え、子会社化した「らでいっしゅぼーや」の収益改善などによるものです。



・コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。

・上記は2018年11月に行った売買のうち、象徴的な銘柄を例としてご紹介したものです。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の現在保有銘柄を今後も組み入れることを保証するものではありません。

(出所)Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

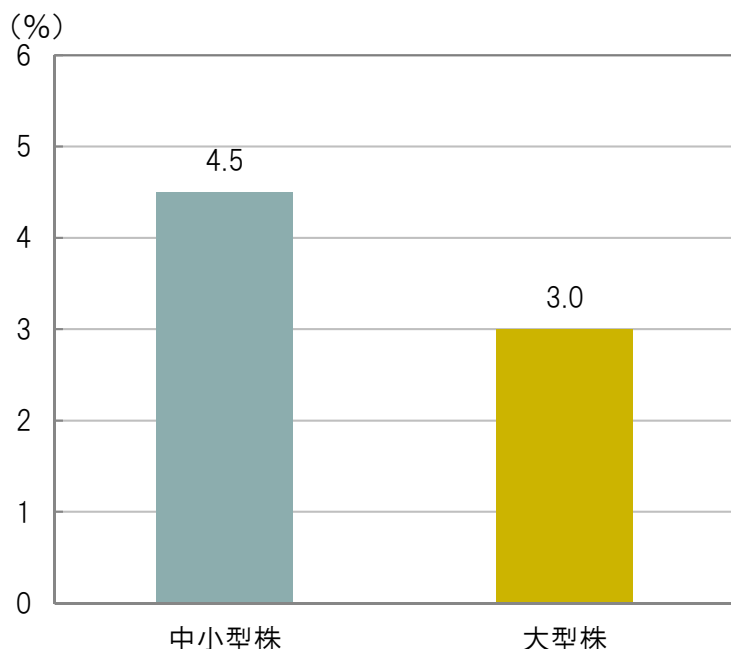
今後の見通しと運用方針

- 個別企業ごとにバラつきはあるものの、企業の合併・買収(M&A)、コーポレート・ガバナンスの改善等を通じて、総じて上場企業の競争力は改善してきています。コーポレート・ガバナンスが強化される中、上場企業の経営意識の違いも明確になりつつあり、今後は個別銘柄選択がより重要になると考えています。
- 当ファンドは、引き続き、競争力のある優良企業の株式の中から、割安と判断される銘柄30~50銘柄程度に厳選してポートフォリオを構築します。
- 2019年3月期の業績予想を見ると、中小型株は大型株と比較して増収増益幅が大きくなっており、売られ過ぎた中小型株の中には、株価が早晚修正される銘柄も多いと考えております。銘柄を厳選しつつ、サイズや業種のバランスを調整し、リターンを追求していく方針です。(【ご参考③】)
- ポートフォリオの運用にあたっては、規模や業種等のバランスを考慮し、経営面、財務面、収益面等を精査しつつ、より確信度合いが高い銘柄への入れ替えを実施していくことで、中長期的な基準価額(分配金再投資)の向上をめざして運用を継続して参ります。

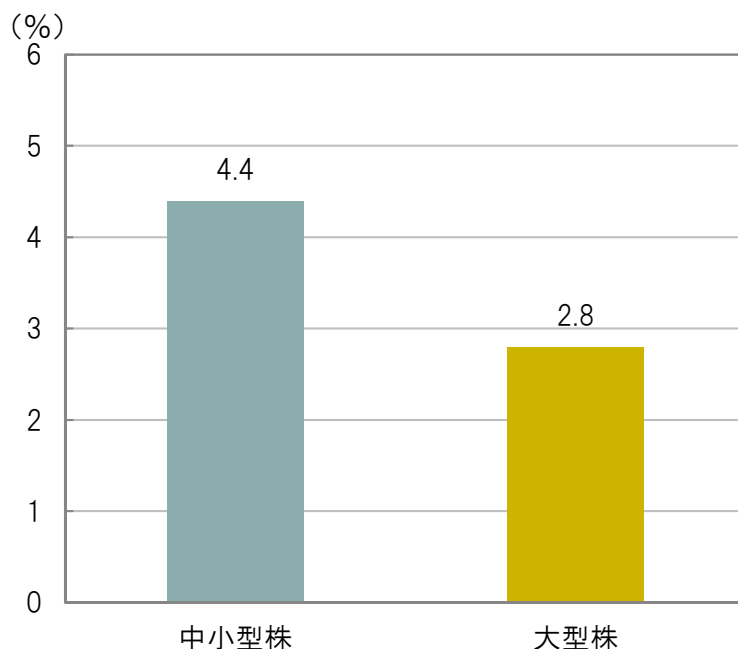
・運用方針は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

【ご参考③】規模別2019年3月期通期会社予想

2019年3月期売上高予想(前年比)



2019年3月期経常利益予想(前年比)



- ・中小型株はTOPIX Small採用銘柄または東証2部上場銘柄または東証マザーズ上場銘柄またはJASDAQ上場銘柄のうち時価総額50億円以上2,000億円未満の3月期決算企業、大型株はTOPIX500採用銘柄の3月期決算企業。同一会計基準で前期通期実績および今期通期予想データが取得できる企業。会社予想がない場合は東洋経済予想で代替。
- ・中小型株は1,478社、大型株は380社が対象。
- ・予想は2018年12月3日時点。

(出所)三菱UFJモルガン・スタンレー証券の資料を基に三菱UFJ国際投信作成

- 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。
- 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

ファンド・マネジャーのコメント

ファンド・マネジャー：野崎 始 Hajime Nozaki



当ファンドはおかげ様で、2019年3月に設定丸10年を迎えます。その間、リーマン・ショック直後や東日本大震災の混乱期、様々な局面を経ながら主担当として当ファンドの運用に取り組んで参りました。

常に意識しているのは、大型から小型までの規模や業種等のバランス等を考慮することによる、リスクコントロールと中長期的な基準価額の向上です。ポートフォリオ構築においては、日経平均株価採用銘柄から東証マザーズ指数構成銘柄まで幅広くサイズの分散を図っています。

2018年は、組み入れていた小型銘柄の下落等により、参考指数に対して劣後する推移となり、大変心苦しく感じております。これまでの約10年間でも類似の局面を克服し、パフォーマンスを積み上げて参りました。今後とも「優良」かつ「割安」な銘柄を「厳選」した運用を継続し、長期で良好なパフォーマンスをめざして参ります。

・運用方針は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。



「Morningstar Award “Fund of the Year 2017”」 最優秀ファンド賞

5年間で4回目の受賞
2013・2017年 最優秀ファンド賞
2014・2015年 優秀ファンド賞

当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、各年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。国内株式大型 部門は、2017年12月末において当該部門に属するファンド623本の中から選考されました。

・Morningstar Award “Fund of the Year 2013”、“Fund of the Year 2014”、“Fund of the Year 2015”、“Fund of the Year 2017”は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

＜お知らせ＞当ファンドに関するメディア掲載情報等をホームページに掲載しております。

こちらからご覧いただけます！

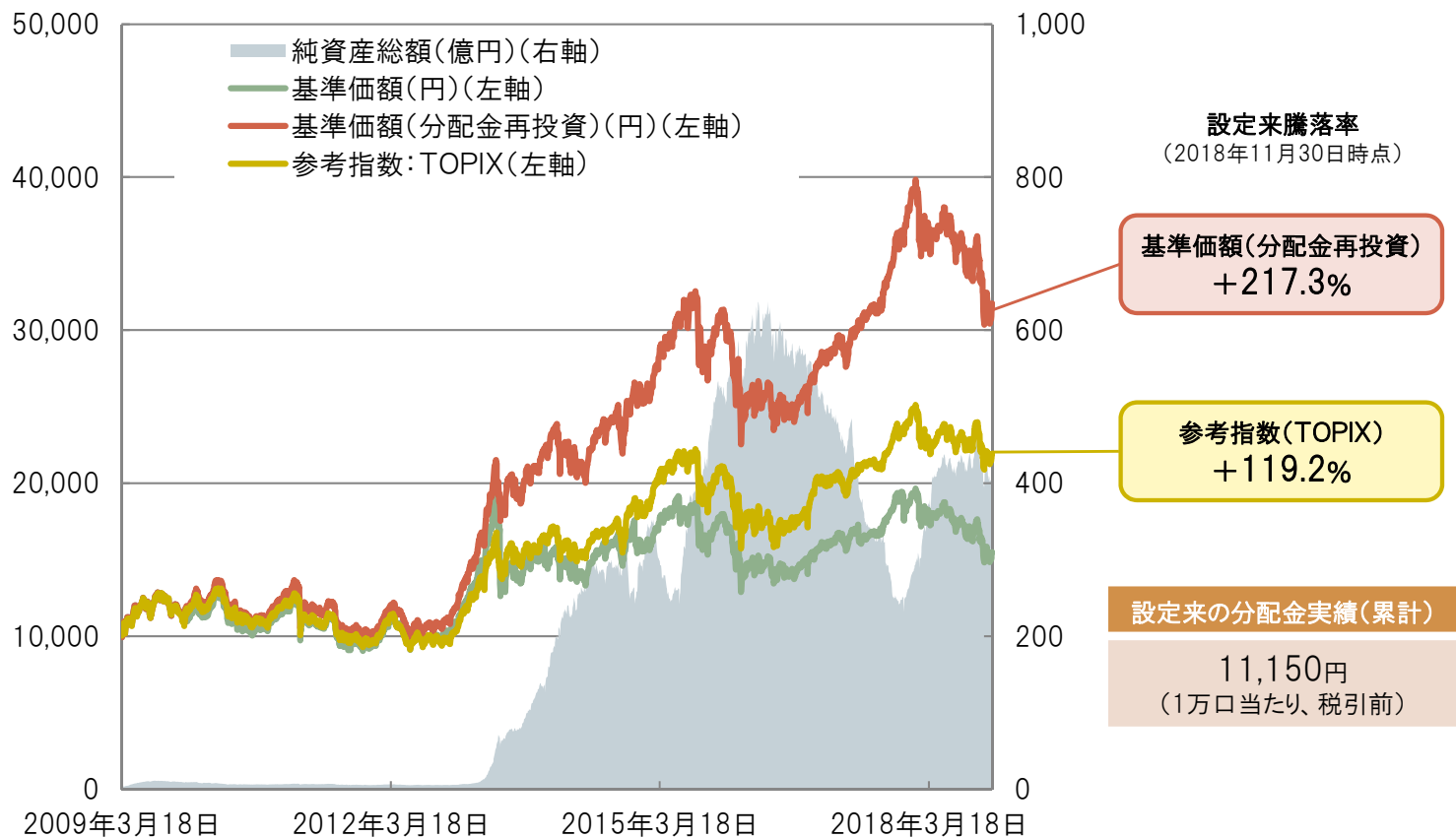
メディア掲載・セミナー情報等



■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

基準価額等の推移(期間:2009年3月18日(設定日)~2018年11月30日)



- ・基準価額(1万口当たり)、基準価額(分配金再投資)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。
- ・信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。
- ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。
- ・参考指数は、東証株価指数(TOPIX)です。参考指数は、当ファンドのベンチマークではありません。
- ・設定来騰落率は2009年3月17日(設定日前営業日)~2018年11月30日までの騰落率を使用しており、10,000を起点として計算しています。

■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。■ 上記は指数を使用しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。
■ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

【ご参考④】想定する日経平均株価水準

- 日経平均株価の2018年度の見通しは21,000円から25,200円を想定します。
※日経平均株価は当ファンドのベンチマークまたは参考指数ではありません。
- 前提は日経平均株価の予想PERで13.0倍～15.0倍、為替は110円～115円／米ドルとしています。予想PERが15.0倍、115円／米ドル等の前提が整った場合、日経平均株価は25,200円程度の水準を想定、予想PERが13.0倍、110円／米ドル等を前提とした場合では、日経平均株価は21,000円程度の水準を想定します。
- 2018年度の日経平均株価採用企業の収益見通しは、高水準ながら従来想定より鈍化する予想ですが、日経平均株価の想定値幅は、27年ぶりの高値水準も視野に入れつつ推移する見通しです。

為替・PER(株価収益率)水準からの日経平均株価予想(円)

(2018年11月30日時点)

		2018年度予想			
		PER13倍	PER14倍	PER15倍	PER16倍
為替 レート	100円／米ドル 120円／ユーロ	19,500	21,000	22,500	24,000
	105円／米ドル 125円／ユーロ	20,200	21,800	23,400	24,900
	110円／米ドル 130円／ユーロ	21,000	22,700	24,300	25,900
	115円／米ドル 135円／ユーロ	21,800	23,500	25,200	26,900
	120円／米ドル 140円／ユーロ	22,700	24,400	26,100	27,900

・日経平均株価予想＝株当たり純利益×PER(株価収益率)

※「株当たり純利益」は2018年度の三菱UFJ国際投信の予想値を使用(2018年11月30日時点)

- 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。
- 上記は指数を使用しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。
- 算出時点によって結果も異なる点にご注意ください。

優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

ファンドの目的・特色

■ファンドの目的

わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、競争力のある優良企業の株式の中から、割安と判断される銘柄に投資することにより、値上がり益の獲得をめざします。

■ファンドの特色

特色1 わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長をめざします。

・株式の実質組入比率は、原則として高位を保ちます。

特色2 競争力のある優良企業*の株式の中から、割安と判断される銘柄(ちから株)を厳選して投資します。

※競争力のある優良企業とは、業界内のシェアや株主還元、財務の健全性等の観点で、相対的に評価が高いと委託会社が判断する企業をいいます。

・銘柄選定にあたっては、株価の割安度等に注目して30~50銘柄程度に投資を行います。

・実際の運用にあたっては、主に優良日本株マザーファンドを通じて投資を行います。

■ファンドの仕組み

・運用は主に優良日本株マザーファンドへの投資を通じて、わが国の株式へ実質的に投資するファミリーファンド方式により行います。

■分配方針

・年2回の決算時(6・12月の各5日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。

・分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。

・分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動 リスク	一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式の価格の下落は基準価額の下落要因となります。
信用 リスク	組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。
流動性 リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

■その他の留意点

・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。

・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。

投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

・ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響する場合があります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

手続・手数料等

■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。
信託期間	2028年12月5日まで(2009年3月18日設定)
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
決算日	毎年6・12月の5日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年2回の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■ファンドの費用

お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に対して、 上限3.24%(税抜 3%) (販売会社が定めます) (購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)
信託財産留保額	ありません。

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	日々の純資産総額に対して、 年率1.08%(税抜 年率1%) をかけた額
その他の費用・手数料	監査法人に支払われるファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についてもファンドが負担します。 ※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。
なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

本資料のご利用にあたっての注意事項等

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号 <ホームページアドレス>

加入協会:一般社団法人 投資信託協会 <https://www.am.mufj.jp/>

一般社団法人 日本投資顧問業協会 <お客さま専用フリーダイヤル> 0120-151034

(受付時間 営業日の9:00~17:00)

●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

販売会社情報一覧表

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は下記の販売会社まで

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
株式会社 阿波銀行	登録金融機関 四国財務局長(登金)第1号	○			
株式会社 イオン銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社 SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
岡三オンライン証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第52号	○	○	○	
おきぎん証券株式会社	金融商品取引業者 沖縄総合事務局長(金商)第1号	○			
株式会社 沖縄海邦銀行	登録金融機関 沖縄総合事務局長(登金)第3号	○			
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第61号	○		○	
株式会社 紀陽銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第8号	○			
株式会社 京葉銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第56号	○			
高木証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第20号	○			
株式会社 筑波銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第44号	○			
株式会社 栃木銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第57号	○			
株式会社 鳥取銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第3号	○			
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第152号	○			
株式会社 北陸銀行(インターネット専用)	登録金融機関 北陸財務局長(登金)第3号	○		○	
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第33号	○		○	
株式会社 山梨中央銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第41号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

【本資料で使用している指数について】

■東証株価指数(TOPIX)

東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。同指数に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

■日経平均株価(日経225)

日経平均株価(日経225)とは、東京証券取引所第一部上場銘柄のうち代表的な225銘柄を対象として日本経済新聞社により算出、公表される株価指数です。当指数は、増資・権利落ち等の市況とは無関係の株価変動要因を修正して連続性を持たせたもので、わが国の株式市場動向を継続的に捉える指標として、広く利用されています。同指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。日本経済新聞社は本商品を保証するものではなく、本商品について一切の責任を負いません。

■TOPIXスモール(TOPIX Small)

TOPIX Smallとは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を時価総額と流動性(売買代金)から区分した株価指数で、TOPIXの構成銘柄のうち時価総額、流動性の高いTOPIX500構成銘柄を除いた銘柄で構成されています。同指数に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。